

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和2年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2020-6	走行中の電気自動車に連続的に無線給電を行う道路の実用化システムの開発	大成建設 新藤 竹文	A
<p><研究の概要></p> <p>本研究では、高効率で汎用性に優れた無線給電を行う道路システムを実現するために、電界結合方式無線給電技術における給電効率や電気自動車への給電制御、舗装の強度や耐久性、修復・更新方法などの実用化技術を開発する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>伝送効率の改善や社会実装に向けた整理により、無線給電技術の体系的な実用化システムの構築が期待されるため、現行の通り推進することが妥当であると評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none">・異物の組合せで構成される舗装の耐久性に関する実証実験および低コスト化手法の検討が望まれる。・次年度の計画で 10kW 送電・7kW 受電の実験計画が示されている。目標とする伝送効率の達成に十分注力いただきたい。・技術的な可能性は理解できるが、社会実装される姿をイメージすることが難しいことから、現場実装を意識して研究を取りまとめられたい。・接着剤を用いる部分を含め、雨水浸透材が弾性層として 10 年機能することの検討が望まれる。・通常舗装と比較してどの程度のコスト増が見込まれるかの試算も踏まえ、基本仕様の検討が望まれる。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 47 回新道路技術会議において審議したものである。